

2 4時間地域巡回型・随時対応サービスモデル事業

事業内容の検証作業

【効果の確認】

1. ご利用者への効果

- ① 予定された曜日・時間にヘルパーが1日数回定期訪問することで、安心した生活の確保が出来、安定した日常生活の確保が出来たことにより、年間数回の入院を繰り返していたご利用者が、在宅生活を継続することができた。
また1日複数回の訪問は精神的な支えとなり、誰かが来てくれる安心感と不安感の解消となった。
- ② 1日の日常生活でピンポイントの支援ができ、水分補給や食事確保が困難であったご利用者の場合、身体状況が改善し在宅生活の継続が可能になった。
特に一人暮らしの高齢者の場合食事内容の偏りにより、栄養失調状態や脱水状態となりやすく、発見が遅れるケースが多いが、1日複数回の訪問と症状に応じてスピーディな対応が可能のため、発見が早期であるので、重篤回避に繋がった。
- ③ 排泄困難なご利用者の場合も、オムツが汚染され、寝具、衣類全てが、排泄物で汚染されていても、介護者がいない場合何時間でもその状態で待たなければならないが、1日複数回の定期巡回を行うことで解消された。
(ア) 服薬困難なご利用者への支援。必ず服薬義務のある疾病患者への確実な服薬確認が行えた。
(イ) 認知症状のあるご利用者への支援。食事摂取・排泄介助・徘徊・火の元・戸締り等生命の危機の排除が行えた。
認知症状のある方でも、ヘルパー派遣時、コールの練習を行なうことで緊急時に利用可能なケースがある。
- ④ 身体的な急変時や転倒・転落時の場合緊急コールで随時訪問可能の為、スピーディな対応と救急搬送で生命を救えた。訪問看護ステーション・医療機関との連携もオペレーションシステムとの連携が出来た。
- ⑤ 24時間・365日の見守りと緊急コールの支援は安心して在宅生活が継続でき、施設入所が少しでも後になった。
- ⑥ 孤独死のケースがなく、緊急コールでの随時対応があり回避できたと思う。
随時訪問はご利用者が自ら判断しコールを押すことができるので、自己判断が可能である。

2. 事業所効果

- ① 24時間・365日サービスの確立が出来た
- ② スタッフの意識向上に繋がった
- ③ ご利用者の確保
- ④ 短時間訪問のケア内容が確立した。

【運営の問題点】

- ①同居家族が生活援助（買物・調理・洗濯・掃除）を担える場合は、短時間の巡回で在宅支援は可能であるが、インフォーマルな支援が望めない場合の生活援助は今後考えなければなりません。
例：有償サービス利用（生活困窮者の場合困難）
- ②訪問看護ステーションとの連携・計画またアセスメントやモニタリング訪問のシステム化の整備が必要である。
- ③包括システムの難しさは、必要に応じた回数・時間の判断で、コーディネート力やプラン作成に利用者ニーズとその根拠が必要である。
- ④利用者確保・制度の理解

【今後の課題】

- ① ケアマネの制度理解とケアプラン内容またスピーディな対応と連携
- ② 訪問看護ステーションとの連携強化
- ③ 中津領域のヘルパー事業所間の連携（包括方式のため各事業所での相違がある）
例：訪問回数・訪問時間・ケア内容
予防給付の場合でも違いがある。
介護度で訪問回数等の決まりがない
- ④ 1日数回の定期巡回訪問をすることが出来る訪問介護員の確保
- ⑤ 夜間対応の定期訪問や随時訪問の訪問介護員の確保